令和元年度 第１回 札幌市 ICT 活用戦略検討有識者会議　議事要旨

【議題１】座長の選任について

●委員の互選により、山本強氏を座長に選任した。

【議題２】札幌市 ICT 活用戦略改定について

【論点１】現行の札幌市 ICT 活用戦略及びこれに基づく取組の評価について

●現在の ICT 活用戦略が策定されて 2 年半余り経ったが、その間、札幌の街並みは変わったが、情報面で何が変わったのか考えると、あまり変わっていないように思う。

●振り返る際に「ICT でこういう取組をした結果、こんなことができるようになった」という整理があると良い。

●ICT 活用プラットフォームは、オープンデータの部分とメンバー企業間でのみデータを共有する部分に分けたので、この仕組みをさらに整理し、色々な分野でデータの利活用のノウハウを積み重ねていくことが重要。

●データの活用に軸足があるように感じるが、テクノロジーの進化を私たちの生活や行政サービスにどう生かせているか、生かす目標はしっかり立っているのかという視点が重要。

●労働人口が減少していること等について、札幌は危機感が足りないのではないか。5 年、10 年後には札幌市でさえも厳しくなる。テレワークによって、東京に集まっている仕事やメインの仕事を札幌でもできる環境を作る必要がある。

●ただデータを集めておけば良いというものではない。「データを活用することで、こういうことができる」というものを市民に見せていくことが必要。

【論点２】札幌市における ICT 利活用のあるべき姿について

●個人情報保護の強化と ICT 戦略の強化はトレードオフの関係にあることを認識すべき。プライバシーを守ろうとすればするほど、ICT 戦略でできることは少なくなる。

●行政サービスのオンライン化は絶対に進めるべき。それこそが市民にとって ICT が使われていることを認識できるわかりやすい機会になる。

●個人情報保護とどう向き合うかも大事だが、まずは、行政機関間での情報連携をしっかり実施してほしい。技術的には可能なので、市民の理解を得たうえで、世の中のシステムを作り変えていくことが必要。

●SDGs（エスディージーズ）の基本理念を大事にしてほしい。高齢者、障がい者など、誰一人取り残さないという姿勢が必要。ICT 化が進めば進むほど、ICT を自分で利活用できる人と誰かが手だてをしてあげないと利活用できない人の格差が広がってしまう。ぜひ、札幌市の姿勢として、できるだけそうならないようにするという姿勢をうたってほしい。

●除雪作業は除雪請負業者のノウハウで成り立っており、それが暗黙知となっている。今後、従事者数の減少が見込まれており、現在の作業体制を維持するためには、請負業者のノウハウとスキルを可視化し、承継していくことが早急に必要。

●企業が使いたくなるようなデータを集めるには、どうしてもセンシティブな情報に踏み込んでいくことになる。センシティブな情報を集める際に、企業にとって価値ある情報を出してしまうことに対しては、インセンティブの考え方を整備したほうが良い。

●個人情報については、スマートフォンを使っていれば、色々な企業に勝手に情報を吸い上げられているにも関わらず、それでも皆、便利だから使っている。最初の同意事項の中に、「何らかのインセンティブの代わりに、生のデータを使わせてもらいます」といったことを入れれば、それに同意する人は一定数いるのではないか。

●民間からのデータについて、価値ある情報を出すからには、お金になる仕組みがあればデータも集まるのではないか。データの流通、金銭面についても、価値付けをした情報の流通の仕組みを考える必要がある。

●ICT 化でデータが見えるようになれば良いと言っているのは第一段階であり、一般市民は効果がなければ嬉しくない。典型的なのは除雪であり、どこまで除雪ができたか、マップや画像で出てきたとしても、一般市民が重要と思うのは雪が減ったかどうかだ。

●あるべき姿を論じるのであれば、札幌はデータを見える化するのか、効果で議論するのか、その辺をしっかり打ち出したほうが良い。

●あるべき姿という論点において、最終的には ICT を活用することで市民にどんなプラスの効果を与えられるかが重要。例えば、市民の活力が高まる、ICT の活用を通じて産業が育つなど。障がいのある人の活躍もプラスの効果。除雪も暗黙知ではなく、データを活用して効率良く配車をする等の取組は進めるべき。

●市民に対しては、オープンデータ化を率先してやっていくべきだと考える。情報を積極的に公開することによって、市民を巻き込み、市民の理解を得ていくことも重要。情報公開にはそういう側面もあるのではないか。

●監視カメラ設置の件が問題になったが、プライバシー保護は確かに重要な課題である一方、産業の発展にとっては阻害要因になる。市長がリーダーシップを取り、市民に説明して理解を得ることが重要。

【論点３】札幌市における「Society 5.0」の実現について

●札幌が考えるICT活用の方向が、結果としてSociety5.0につながるならばそれで良いかもしれないが、Society5.0を札幌としてどうするかを考える手法には違和感がある。

●Society5.0 の絵に合わせ込むのではなく、「札幌をより良いまちにしていったら結局そうなったよね」のような、そういう世界を今描くことができたらとても良いと思う。

●「札幌市の考えるSociety5.0はコレです」という絵を描いてほしい。その絵を市民なり納税者に見せないと、概念の議論になってしまう。

●3 年前に今の ICT 活用戦略を作った際に、具体的な数値目標がなく、漠としている面はあるにせよ、価値の創造と向上という目標に対し、課題感をもって当たるという方向性は大事だと考える。

●スーパーシティ構想の 2 タイプのうち、中心部に活用できそうな空き地がない札幌の場合においては既存都市型（ブラウンフィールド型）が現実的で、新規開発型（グリーンフィールド型）は難しいという話だったが、グリーンフィールド型も良いのではないか。とてもハードルが高いことはよくわかるが、例えば郊外に新しい区を作り、高齢者のためのユートピアのように、高齢者が住みやすいまちを ICT で実現するというのはどうか。

●パイロットプロジェクトを実行して具体的にコトを進め、やり遂げることで、市民の生活がどう変わったかを体感できるようにすることが重要。

●市民が理解できる例を作り、見せてあげれば、理解できる人は飛躍的に増える。プロトタイプの初歩的なもので良いので、例を見せていくことが必要。「札幌は例がたくさんあるところ」というビジョンを立てたらどうか。

●市役所コールセンターのように、「実は、札幌はとても進んでいる」ということを市民が認識し、活用するということだけでも違うような気がする。

●総務省がまとめた「スマートインクルージョン構想」に注目している。要は、どうやって ICT を国民生活のために使っていこうかという話であり、社会的包摂という中で ICT を活用し、豊かな社会づくりに生かしてもらえたらと思う。

以上